

# OKFA ユース強化育成コンセプト

オホーツク地区サッカー協会 技術委員会 2025



## 1. ユース育成年代の定義

年代	U-10	U-11	U-12	U-13	U-14	U-15	U-16
	ゴールデンエイジ			ポストゴールデンエイジ			クライマックス
ゲーム環境	誰もがフットボーラー(8人制)			ポジションの適性を考える(11人制)			大人のサッカーへ
指導の主眼	個に焦点を当てた育成			チームコンセプトのもとに個を育成			

育成年代を 10 歳から 16 歳までと、明確に定義します。つまり小学 4 年生からは、育成の指導方針に沿って指導していきます。

それぞれの発達段階にあわせて、個に焦点を当てた育成から、徐々にチーム(組織)のコンセプトの下に個が生かされるように指導の主眼を変えていきます。そのために、ゲーム環境を U-8 から U-13 までは、8 人制を主として行い、U-13 から 14 にかけて本格的に 11 人制に移行していきます。

U-10 からの指導では、特にテクニックの習得に主眼を置きます。止める・蹴るの質を徹底的に求め、試合中でもそのテクニックを発揮できるようにします。守備では“本気で奪いに行く”習慣を身に着けさせます。

しかし、U-12 までは”1 対 1”だけでいいのかということではありません。個の育成を主眼としながらも、他のプレーヤーなど自分を取り巻く環境と関わりながら、フットボーラーとしての技術・戦術・体力を磨いていくということです。

## 2. チームとトレセンの両輪による指導

日常のトレーニング環境はチームが主体です。チームにおいて、サッカーに関するすべての要素を、発達段階を考慮して指導しています。また、当地区は 4 種年代でも早い段階からリーグ戦を導入し、8 人制にも取り組んできました。チームを通して個を育成する環境が十分に整っています。

トレセンでは、優秀な選手や意欲の高い選手のトレーニング環境を、より高度なものにできるように取り組んできました。また、これまで世界基準を目指して、地区→道東→北海道→JFA へとつながるステップとしての役割を担い、子どもたちに夢を実現する場を提供してきたつもりです。

チーム・トレセンそれぞれルートは違いますが、個の育成・強化を目指すことに変わりはありません。指導者は、どのような立場であっても「プレーヤーズ・ファースト」の視点に立って、子どもたちの夢の実現の手助けをしていくべきであろうと考えます。

### 3. オホーツク地区の可能性

子どもの成長は時間がかかります。また、ある時急激に成長を見せる子どももいます。「この子はこれができない」「この子はだめだ」と、決め付けてしまうのは、選手の可能性を奪うことにつながります。当地区出身の選手として、奈良竜樹・高瀬愛実といったプロ選手や、全国の強豪大学・高校で活躍している選手が数多くいます。これらの選手は、高い技術や身体能力を持っていたと思いますが、どれほどの指導者が、彼らがここまで活躍をすると予測していたでしょうか。広いオホーツク地区を考えると、これほどの選手もしくはこれ以上の選手がこれからも育っていく可能性は十分にあります。

選手の可能性が開花するのは育成年代を過ぎてからということもあります。指導者が彼らのトレーニング環境・ゲーム環境を整えてあげることで、選手が自立したときに、育成年代で身につけた技術・戦術・体力・精神を駆使して彼らは活躍していくことでしょう。

数年前までは、オホーツク地区から優秀な選手を輩出しつつも、地区トレセン全体のレベルは常に低位に位置していました。順位だけでなく、ゲーム内容・選手の技術レベルともに、北海道の中では低いといわざるを得ない状況でした。

しかしながら、近年のさまざまな取り組み(指導者養成・リーグ戦改革・トレセン活動の充実・各種年代トレセン指導方針の共有など)により、地区トレセンに選ばれる選手の質が

2024年度 北海道トレセン参加選手  
22名 (うち女子選手6名)

徐々に上がってきました。特に4種では、その成果が顕著に表れ、トレセン交流大会などでは、他地区と互角以上に戦うことができています。

### 4. オホーツク地区の課題

課題という欠点を改善するととらえがちですが、オホーツク地区が持っている可能性をさらに伸ばすために、どんなことができるかという視点に立って考えます。

	アドバンテージ	ディスアドバンテージ
トレセン	秀逸な“個”	コミュニケーション能力、 適応力
	選手の輩出	選手の流出
選手	指導者一人あたりの選手数が 少ない(細やかな指導)	日常が少人数のトレーニング
	広域で、個性のある選手の中から 選抜できる	トレーニング参加の負担 部活動地域移行化

指導者	上級ライセンス取得者の増加	意識の2極化
	定期的な指導者研修会	多忙化

オホーツク地区では、C級・B級ライセンス取得者も

増え、指導者一人ひとりの意欲の向上が見られます。よりいっそう指導者どうしのネットワークの構築・コンセプトと情報共有を目指していきます。普段はそれぞれの生活圏でできることを考え、実行していきながら、組織的に取り組んでいくことが大切だと考えます。

ただ、上図のように、すぐには解決できない問題も多く抱えています。例えば、3種年代の部活動地域移行化が進む中、中学進学と同時に管外のクラブチームへ転出する選手が増えています。選手の輩出と捉えることも可能ですが、3種でも質の高いトレセン活動を進めていくためには、4種年代からの普及・育成事業にさらに力を入れる必要があると考えています。

近年、オホーツク地区トレセンから巣立っていった子どもたちが、社会人となって戻ってきています。選手として活動している場合が多いようですが、審判やコーチとして活動しようという意欲のある方もいます。高いレベルを経験してきた貴重な人材を、現場で指導者として育てていくのも我々の仕事であると考えています。各地域協会・クラブ関係者の方々には、情報網を張り巡らせ、優秀な若い指導者に活躍の場を与えていただきたいと思います。

さまざまな成功例を見ると、情熱と行動力・人づくりと仲間づくりで、夢のようなことでも実現が可能だということがわかります。オホーツク地区としても、サッカーに関わる仲間がユース育成のコンセプトを共有・共感して、あきらめずに努力していけば、目標の達成が可能だと思います。「OKFA ドリームプロジェクト 2025」をみんなで達成しましょう。

## OKFA ドリームプロジェクト2025

U-16 年代以降で日本代表となる選手を輩出

U-11 年代以降で北海道トレセンクラスの選手を複数輩出

そのために

4～2種全チームにC級以上の指導者を登録

JFA 公認 B・ユース B 養成講習会に複数の受講生を派遣

全チームの指導者が指導者研修会に複数回参加（トレセンスタッフは指導実践型）

エリアトレセンの活動強化

女子選手の普及・育成の強化

キッズ事業との連携